

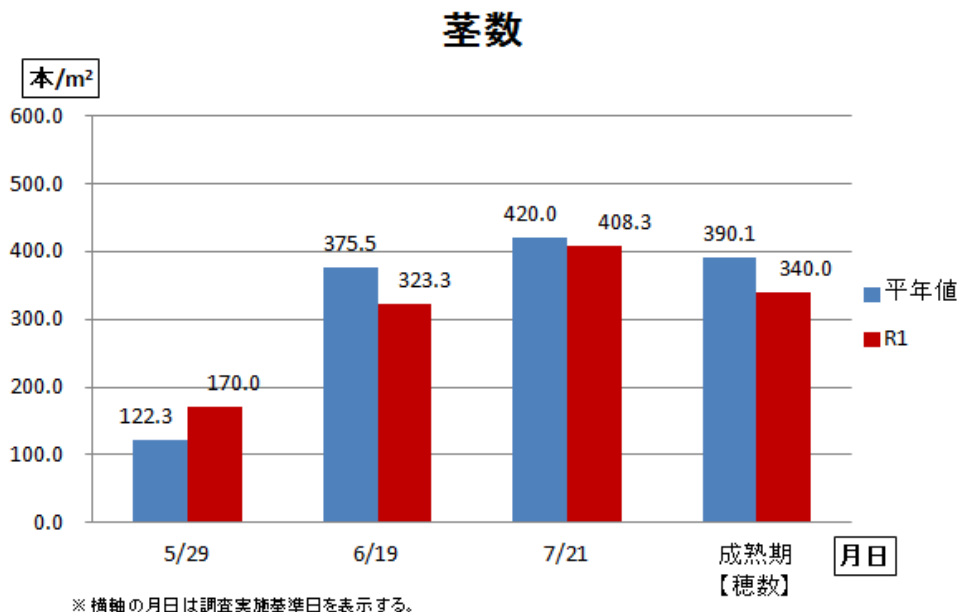
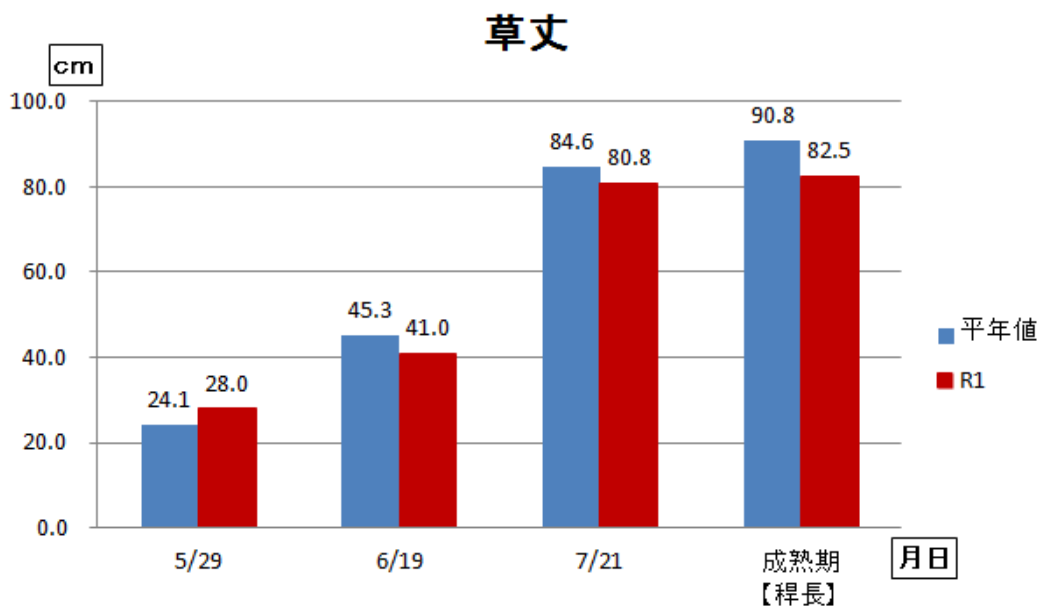
令和元年度 農作物（水稲）モニター事業調査結果

本県NOSA Iでは、水稲の生育状況を調査し、気象・病害虫発生状況などの基礎情報を継続的に観測して、県内水稲の作柄や被害発生状況の把握に務めています。

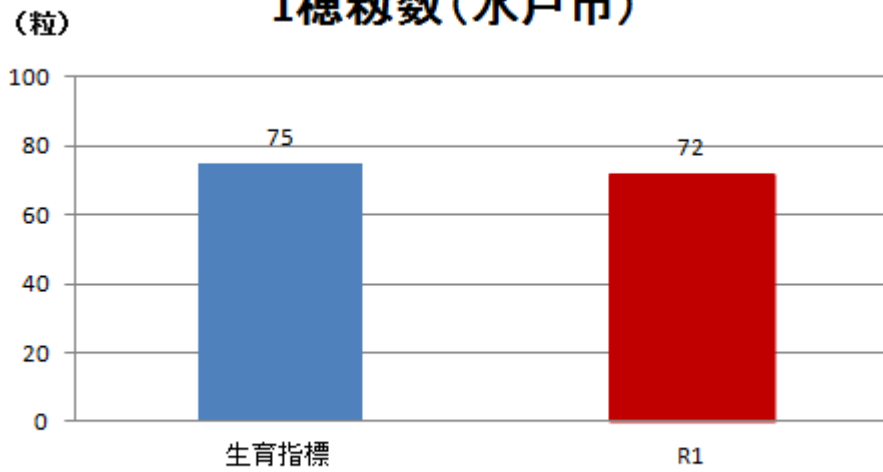
1. 水稲の生育および収量調査結果（第5回）

1) 水戸市の調査結果

調査場所	品種	移植日	生育調査日	収量調査日
水戸市	コシヒカリ	5月18日	9月11日	10月23日

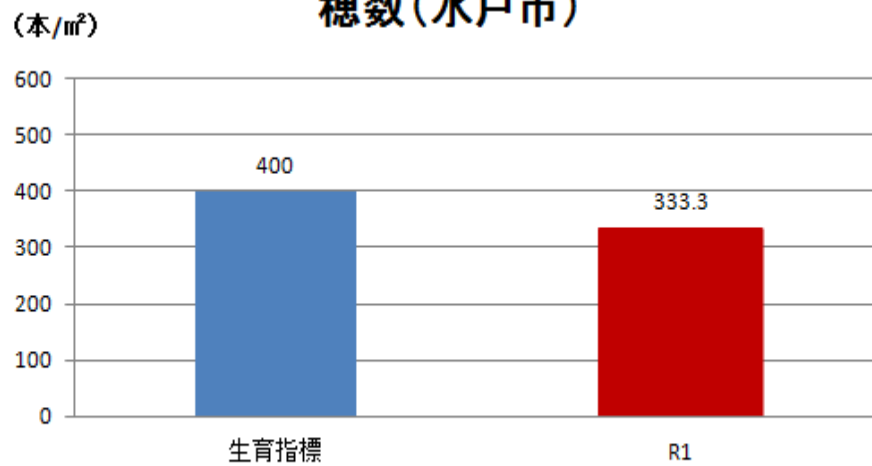


1穂粒数(水戸市)



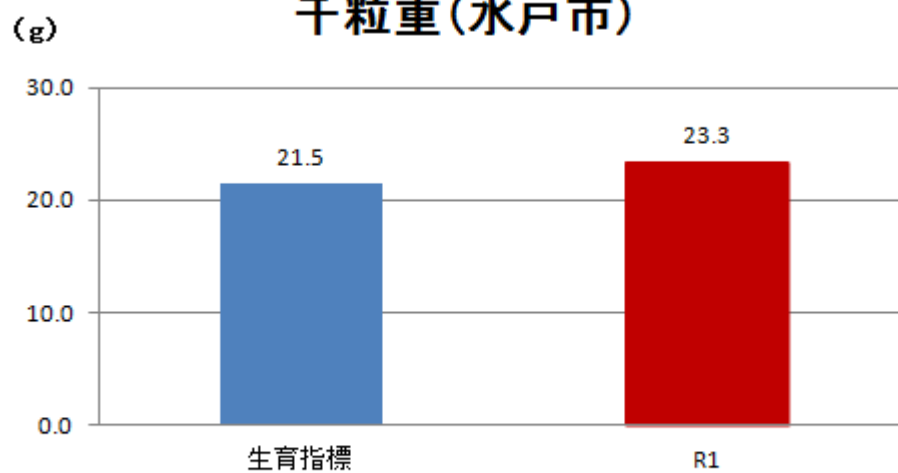
※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

穂数(水戸市)



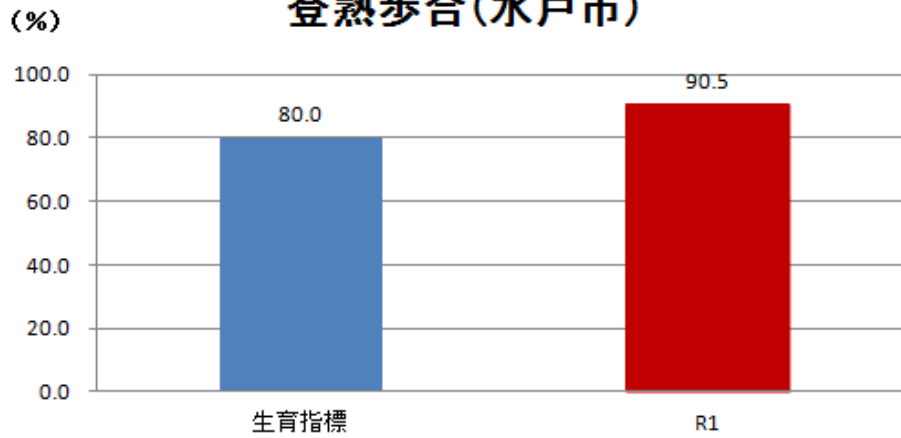
※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

千粒重(水戸市)



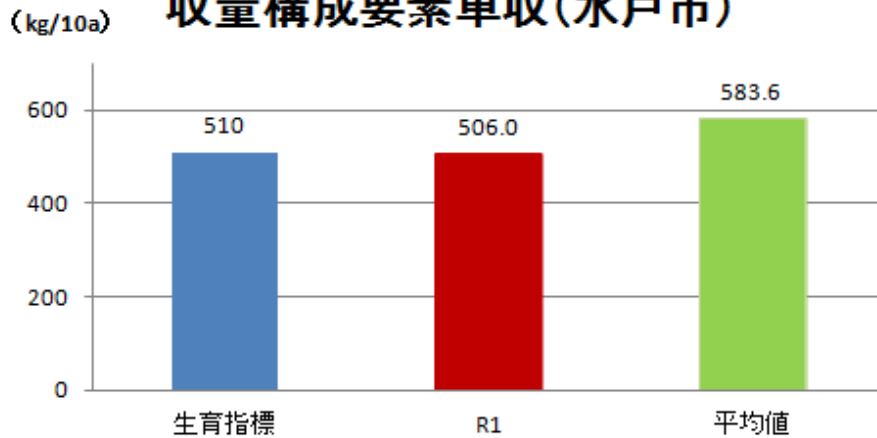
※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

登熟歩合(水戸市)



※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

収量構成要素単収(水戸市)



※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は平成 26～30 年の 5 年間の平均値

○生育調査結果について

草丈は、5月の調査では平年より高かったものの、その後6月、7月はやや低い～平年並に推移し、最終的に稈長はやや低くなりました。

茎数は、5月は極多かったものの6月、7月とやや少ない～平年並に推移し、最終的に穂数はやや少なくなり、目標の㎡当たり400本の確保に至りませんでした。

葉色は、5月は極濃かったものの、その後淡い～平年並となりました。

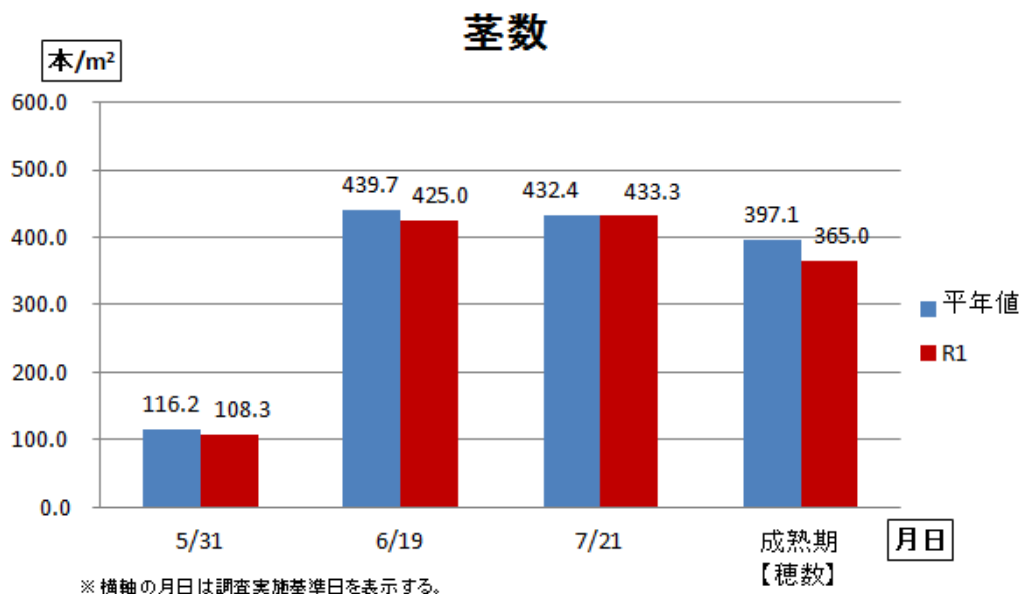
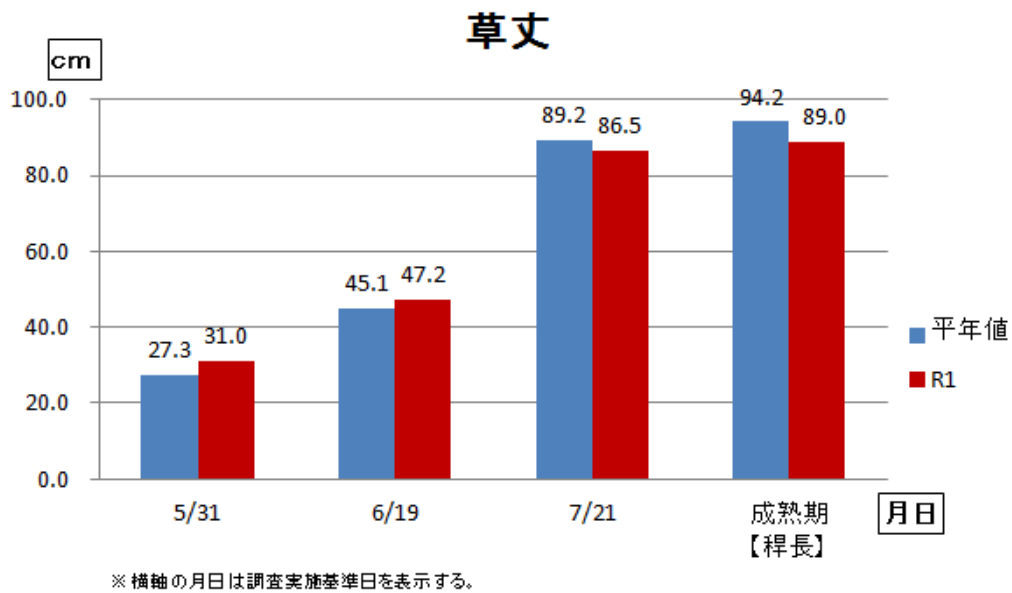
○収量調査結果について

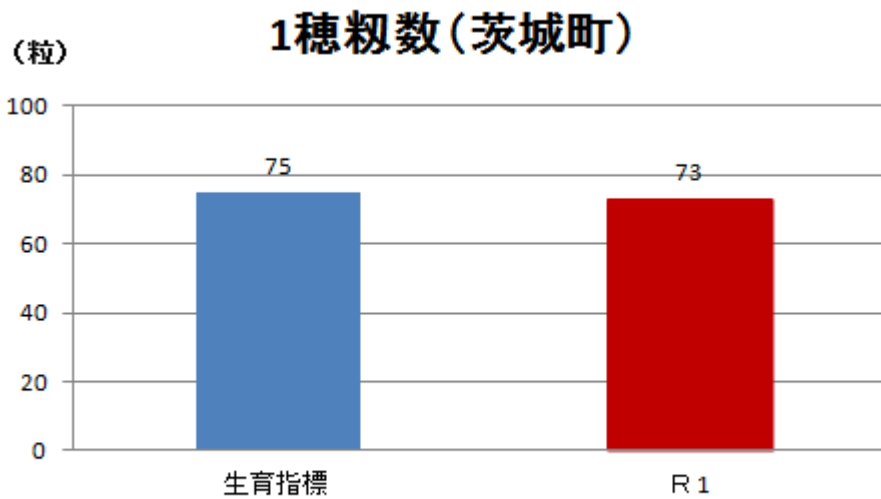
本年は、穂数が少ないことが収量構成要素単収が平年値に比べ低い原因となっています。これは、7月の天候不順の影響を受けて、有効茎になり得なかった分げつが多かった事に起因しています。通常は穂数が少ないと、穂長が長くなり1穂粒数が多くなるのですが、本年は穂数同様7月の天候の影響を受けて少なくなっています。登熟期にあたる8月が例年にまして高温であったため、本年は一般的に登熟が良くありませんでしたが、本圃場では㎡当たり粒数が少なくなったことにより千粒重が重く、登熟歩合も良くなっています。

本年の高温のように近年、気候リスクが高まっています。このような中、安定した収量・高品質生産を確保するためには、基本技術の励行が重要です。

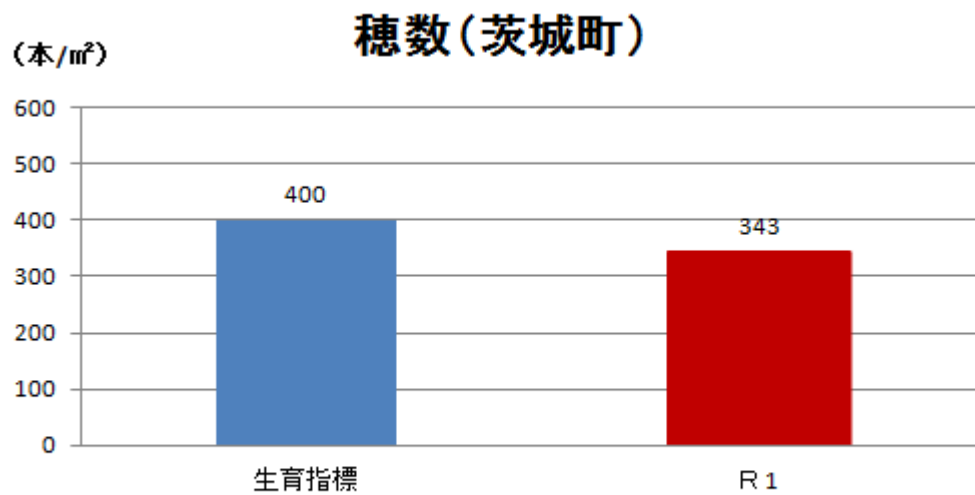
2) 茨城町の調査結果

調査場所	品種	移植日	生育調査日	収量調査日
茨城町	コシヒカリ	5月12日	9月11日	10月23日

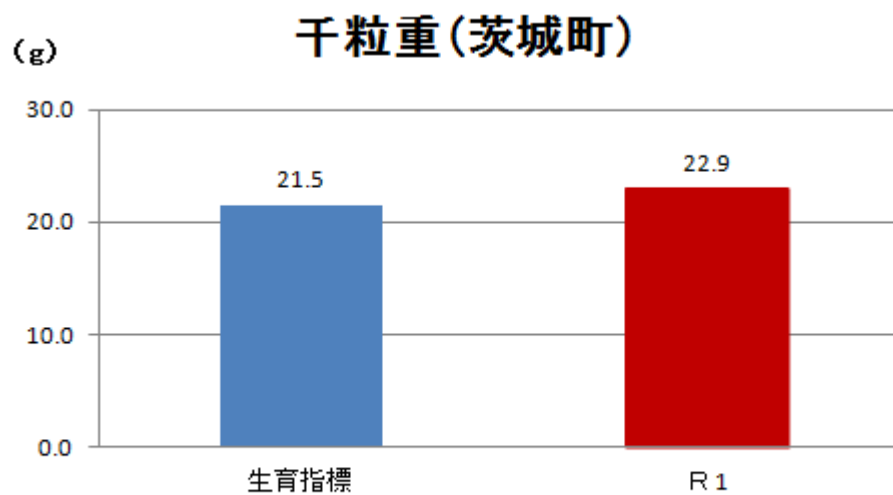




※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

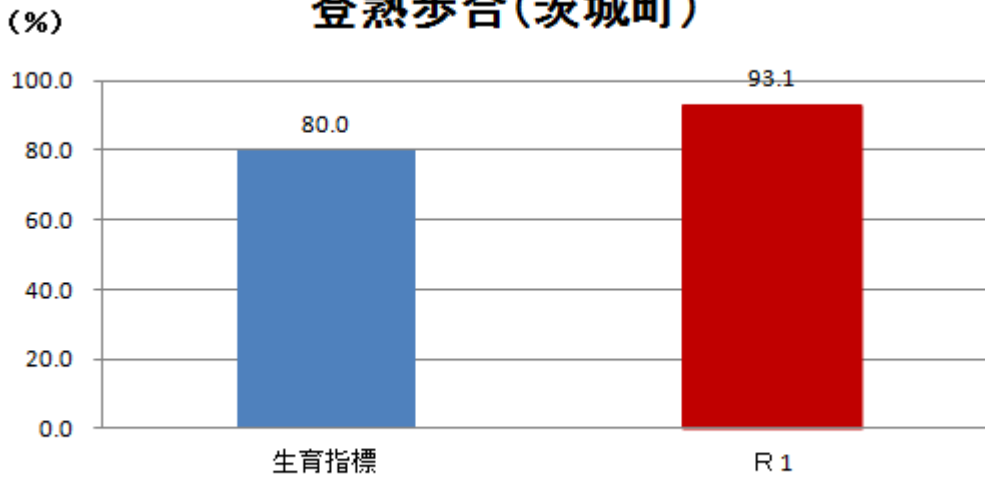


※【コシヒカリの生育指標】を用いた。



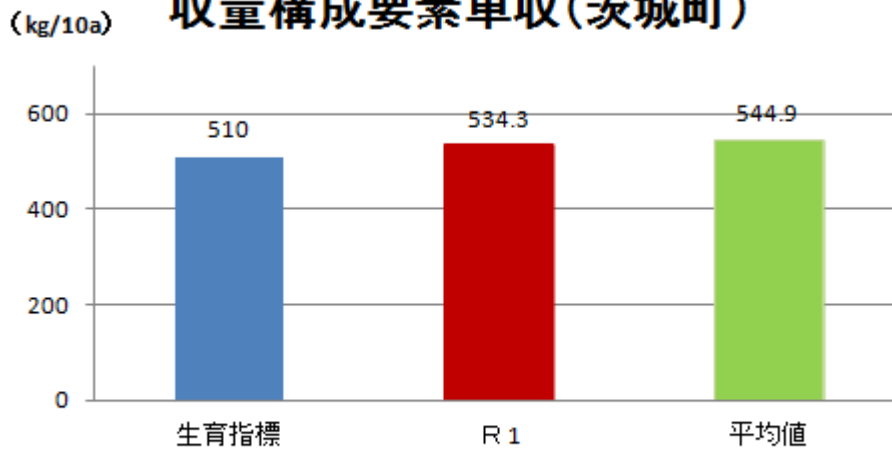
※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

登熟歩合(茨城町)



※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

収量構成要素単収(茨城町)



※【コシヒカリの生育指標】を用いた。

○被害度は該当虫による葉の食害の度合い

○平年値は平成26~30年の5年間の平均値

○生育調査について

草丈は、5月の調査では平年より高かったものの、その後6月、7月は平年並に推移し、最終的に稈長はやや低くなりました。

茎数は、生育期間をとおして平年並に推移し、穂数も平年並となりました。

葉色は、6月にやや淡くなりましたが、平年並～濃く推移しました。

○収量調査について

本年は低収傾向でしたが収量構成要素単収が平年並に確保されています。

7月の天候不順の影響を受けて、有効茎になり得なかった分けつが多く穂数が少なくなりました。穂数同様7月の天候の影響を受けて1穂粒数が多くならなかったことにより㎡当たり粒数が少なくなりました。登熟期にあたる8月が例年にまして高温であったため、本年は一般的に登熟が良くありませんでしたが、本圃場では㎡当たり粒数が少なかったことにより千粒重が重く、登熟歩合も良くなっています。

本年の高温のように近年、気候リスクが高まっています。このような中、安定した収量・高品質生産を確保するためには、基本技術の励行が重要です。

2. 次回調査予定日

令和元年度の農作物（水稲）モニター事業調査は今回で終了です。来年度も引き続き調査を行い、県内水稲の作柄や被害発生状況の把握に努めてまいります。

茨城県農業共済組合連合会調べ
協力：茨城県農業総合センター